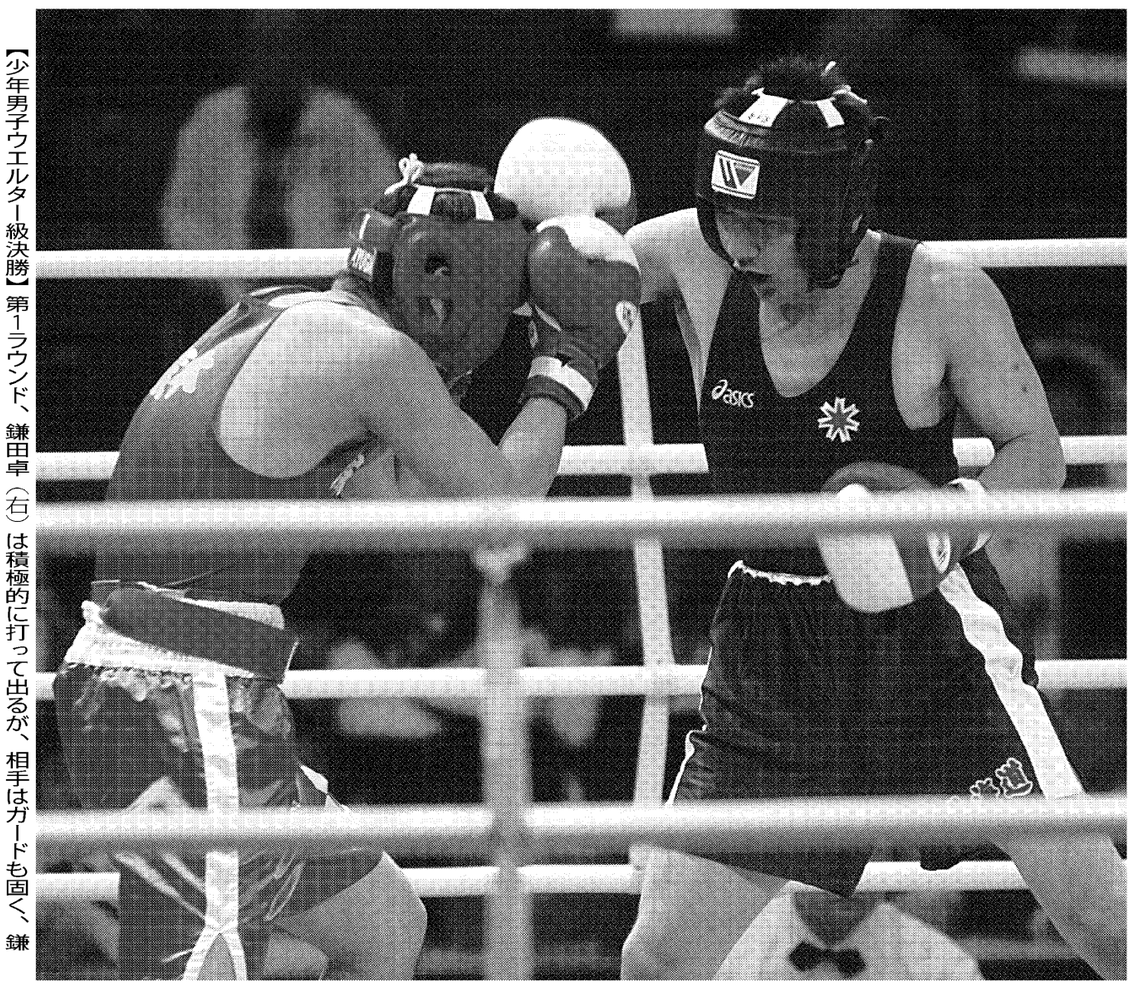
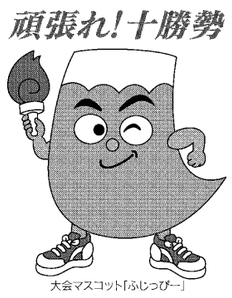
鎌田堂々準V

〈白樺高3年〉



【少年男子ウエルター級決勝】第1ラウンド、鎌田卓（右）は積極的に打って出るが、相手はガードも固く、鎌田のパンチを封じられた

頑張れ！十勝勢



大会マスコット「ふじっぴー」

NEW!! わかふじ国体 25日⇒30日

少年男子ウエルター級 管内勢で最高の成績

【静岡】NEW!!わかふじ国体は30日に最終日を迎え、静岡県内で各競技を行った。十勝勢はボクシング少年男子ウエルター級で鎌田卓（白樺学園高3年）が決勝で、今季のインターハイチャンピオンと真っ向から打ち合いを挑んだが、相手にうまくガードされ、逆に相手のパンチに封じられ敗戦。しかし、鎌田は十勝のボクシング選手としては国体で過去最高の堂々準優勝に輝いた。陸上競技は女子4×百㍍リレーで北海道は1走・福島千里（糠内中3年）、アンカー・木田真有（福島大3年―帯南商高出）の構成で決勝を戦い、46秒14で4位入賞を果たした。

ボクシング

（30日・熱海市南熱海マリンホール）

最終日は午前9時から少年、成年各8階級の決勝を行った。少年男子ウエルター級の鎌田卓（白樺学園高3年）は今年の片や今夏のインターハイチャンピオンの後藤宏彰（熊本・開新高）、片や同大会で1階級下のライトウエルター級で初戦敗退を喫している鎌田卓（白樺学園高）。その2人が国体という大舞台の決勝でグローブを交えた。鎌田は最初から前へ前へとプレッシャーをかける。後藤は左右に動きながら重たいパンチを鎌田の顔、ボディーと打ち分けた。

「1ラウンドから結構パンチをもらってしまって。つかまえられなかった」と鎌田はRSCでの完敗に悔しさをにじませた。

鎌田のボクシングスタイルはスマートではない。テクニックを使うというのではなく、とにかくがむしゃらに前に出てフェリー・ストップ・コンテスト）が告げられ敗戦。しかし、鎌田は十勝のボクシング選手としては国体で過去最高の堂々準優勝に輝いた。陸上競技は女子4×百㍍リレーで北海道は1走・福島千里（糠内中3年）、アンカー・木田真有（福島大3年―帯南商高出）の構成で決勝を戦い、46秒14で4位入賞を果たした。

インターハイチャンピオン・後藤宏彰（熊本・開新高）と対戦。相手のテクニックと重たいパンチ、うまいガードに鎌田はなかなか相手の中に飛び込めず、第2ラウンドにRSC（レフェリー・ストップ・コンテスト）負けを喫したが、見事に大舞台で準優勝を飾った。北海道は鎌田らの活躍で同競技総合4位に入った。

また、前日に行われた準決勝ではインターハイベスト8の増田慎之介（神奈川・武相高）と接戦を繰り広げた。相手はフットワークを使い、右ストレートを武器にしたテクニックのあるアウトボクサーで、鎌田はクリーンヒットを受けながらも自分のスタイルである前へ前へとプレッシャーをかけながら上下にこつこつとパンチを当てた。試合は判定にもちこまれ、鎌田本人は相手のパンチの印象度から負けを覚悟していたが、ポイントで相手を上回り、自分でも驚きを隠せない表情で勝ち名乗りを受けた。

（30日・十勝関係分）

【少年男子】◇ウエルター級▽決勝　後藤宏彰（熊本・開新高）RSC 2R1分6秒 鎌田卓（白樺学園高）（29日）

▽準決勝　鎌田卓判定増田慎之介（神奈川・武相高）

十勝のボクシング選手としては国体で最高位の準優勝を獲得した鎌田卓（白樺学園高3年）

全国王者まであと一歩　鎌田

「泥臭さ」磨きプロ狙う

相手の懐に飛び込み、左右のパンチを連打する。直線的でありながら変則スタイルでもあり、泥臭さに満ちている。準決勝の相手のようにパンチテクニックとフットワークを兼ね備えたアウトボクサーからきれいなストレートを何度もヒットされ、「負けるかもしれない」と思いながらも執ような攻めを続け、相手のクリーンヒットを上回るパンチをこつこつと当てて勝利をもぎ取る。北海道の佐藤秀行コーチ（恵庭南高監督）は「相手を混戦に巻き込んでいき、相手に力を発揮させないところがある」と鎌田独特の変則スタイルに一目置く。

身長170㌢と同階級の出場選手の中では決して大きくはない。今年8月、1階級下のライトウエルター級でインターハイ出場を果たしたが、減量の失敗から動きに精細を欠き、初戦敗退。9月の国体道予選から本来の階級に上げ、動きを取り戻し、全国チャンピオンにもあと一歩と詰め寄った。

高校卒業後は「プロを目指す」と言う。友人に誘われて遊び半分で始めたボクシングにはまり込み、鎌田が通う帯広ボクシングジム（中橋邦夫会長）の中でも練習量は飛び抜けて多い。その努力が全国のトップクラス入りをもたらした。「自分にはテクニックがないけれど、前に出るスタイルはだれにも負けない。体をもう一度つくり直してプロに」と決意を込めた。

馬術

下田は12位

（29日・御殿場馬術競技場）

第4日は成年女子ダービー競技に下田知実（十勝柏友会乗馬クラブ＝帯畜大獣医学科5年、騎乗馬・アイムシュアー）が出場。競技者のトップバッターとして登場し、減点4に抑えたもののノーミスクリアが5人、減点1が1人、同4も7人中6番目のタイムで12位となり、2年連続入賞を逃した。

（1位と十勝関係分）

【成年女子】◇ダービー競技▽決勝（減点法）＝①川口雅美（静岡、騎乗馬・ブラガー）減点0、所要時間2分10秒37、5人によるジャンプオフ（優勝決定戦）の結果⑫下田知実（十勝柏友会乗馬クラブ、騎乗馬・アイムシュアー）減点4、所要時間2分8秒30

NHK杯 アイスホッケー 小学生の部

御影と開西が2回戦に進出

アイスホッケーの第46回NHK杯争奪全十勝大会（NHK帯広放送局主催）第2日は29日、帯広の森アイスアリーナで1回戦2試合を行った。御影が5―1でチャイルズに勝利、開西は音更に12―4で快勝してそれぞれ2回戦に進出した。

◇2回戦

御影5（2―1、2―0、1―0）1チャイルズ

▽得点者【御】村井2、中村2、村上祐

▽反則【御】2（里村、小林）

【チ】3（代田、桑波田将、水上）

▽シュート数【御】29（10、7、12）【チ】9（3、2、4）

▽審判＝広川、吉澤、倉金

開西12（4―0、6―2、2―2）4音更

▽得点者【開】羽賀4、三田村康3、佐藤2、熊谷、津田、横山

【音】小原4

▽反則【開】2（津田2）【音】1（畔木）

▽シュート数【開】49（15、21、13）【音】36（12、10、14）

▽審判＝春木、花田、遠藤

ゴルフ

◇OCCレディス会（21日・新嵐山）

①松島京子83、5、78②池田優子96、16、80③斉藤里子99、19、80④中鉢靖子112、32、80⑤鈴木千恵95、14、81

◇リラクラブ（24日・新嵐山）

①加藤良子94、18、76②鈴木洋子97、21、76③鈴木千恵97、14、83④山下良子109、25、84⑤中鉢靖子117、32、85

◇どーもクラブ（26日・白樺）

①国枝康則92、18、74②角谷充章88、13、75③柴田良二90、15、75④柴田俊介93、18、75⑤酒井満生86、10、76

▽B・G＝佐藤晴紀83

勝毎杯テニス男子

高橋・吉田組（幕別・音更）V

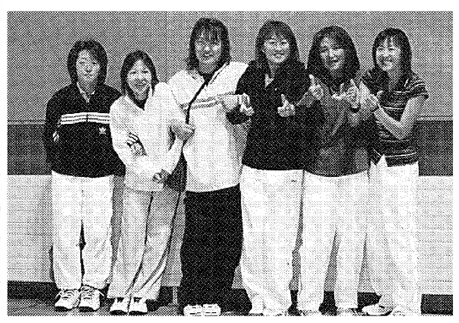
女子 稲村・小田組（音更・広尾）制す

【幕別】テニスの勝毎杯大会＝幕別テニス協会（宮本彰会長）主催、町教委、十勝毎日新聞社共催＝は26日、札内スポーツセンターで男女の各ダブルスを行い、男子は高橋一繁・吉田文彦組（幕別・音更）、女子は稲村裕美子・小田るり子組（音更・広尾）が制した。成績は次の通り。

【男子】①高橋一繁・吉田文彦（幕別・音更）②鈴木圭太郎・野村文吾（音更）③三村滝彦・小野誠士（音更）

【女子】①稲村裕美子・小田るり子（音更・広尾）②神谷すみれ・小林由起子（個人・キティホーク）③田島理恵・山田麻美（音更・FR）

男子の上位入賞者（右から吉田、高橋、鈴木、野村、小野、三村）



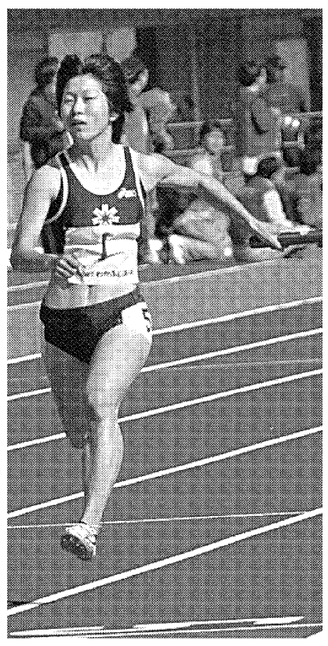
女子の上位入賞者（右から稲村、小田、神谷、小林、田島、山田）

陸上

女子4×百㍍リレー

1走 福島（糠内中3年）アンカー 木田（帯南商高出）

北海道4位入賞



【成年少年共通女子4×百㍍リレー・決勝】必死に追い上げる4走の木田真有（福島大―帯南商高出）。北海道は目標の優勝を達成できなかったが、見事4位入賞を果たす

（29、30日・小笠山総合運動公園エコパスタジアム）

最終日の30日は男女3種目を行った。成年少年共通女子4×百㍍リレー決勝は、福島千里（糠内中3年）、木田真有（福島大3年―帯南商高出）がメンバー入りする北海道が46秒14で4位入賞を果たした。今大会は6人の十勝勢が出場したが、1種目で優勝、3種目で入賞を勝ち取る快挙を達成。〝陸上王国〟十勝を強くアピールした。

競技4日目の29日は男女19種目を行った。今本有紀（十勝陸協）は成年女子ハンマー投げ決勝に臨んだが44㍍76で10位に終わり、あと一歩のところで8位入賞を逃した。成年少年共通女子4×百㍍リレーは、福島と木田がメンバー入りする北海道が準決勝1組で46秒03をマークし、全体の3位で決勝へ進んだ。

（30日・小笠山総合運動公園エコパスタジアム、1位と関係分）

＜成年少年共通＞

【女子】◇4×百㍍リレー▽決勝＝①静岡45秒52④北海道（福島千里、北風沙織、久保倉里美、木田真有）46秒14

十勝勢快走もメダル逃す

成年少年共通女子4×百㍍リレー決勝。全体の3位で決勝に進んだ北海道は、前半はトップ争いを演じ健闘したが、46秒14で4位。1走・福島千里（糠内中3年）、4走・木田真有（福島大3年―帯南商高出）はともに快走したものの優勝できず残念な結果に終わったが、連日の活躍を見せてきた十勝勢が、国体の最後を飾るリレー種目でも輝いていた。

準決勝トップの福島県は7レーン。北海道は5レーンに入った。1走・福島は、鋭いスタート、コーナーワークでトップ争いを演じた。国体を含め百㍍で3大全国大会3冠の2走・北風沙織（恵庭北高）も快調に飛ばした。3走・久保倉里美（福島大）も力走し、アンカーへつないだ。木田はトップでバトンを受けることはできなかったが、後半に強さを発揮。追い上げたが3位に0秒07及ばなかった。

成年女子四百㍍に続き入賞の木田は「みんな頑張ったのだが…勝つことができず残念」。国体初入賞を果たした福島も笑顔はなかったが「少年B二百㍍（準決勝敗退）の悔しさを晴らせた」と少し喜んだ。

4人の表情は晴れやかとまではいかなかったが、チームワークは抜群だった。木田は「このメンバーで走ることができて良かった」。十勝勢2人を含め、日本短距離界をリードする4人は「来季同じメンバーで優勝したい」と雪辱に燃えていた。

「来年は優勝を」とリベンジを誓う北海道女子リレーチーム。左から4走・木田真有（福島大―帯南商高出）、3走・久保倉里美（福島大）、2走・北風沙織（恵庭北高）、1走・福島千里（糠内中）

「来季は優勝」雪辱へ燃える

陸上競技場など帯広の森3施設

あすで今季終了

帯広の森陸上競技場、帯広の森アーチェリー場帯広の森テニスコートは31日で今季の営業を終了する。最終日の営業時間は、陸上競技場が午前9時から午後5時まで、アーチェリー場が午前9時から午後9時まで、テニスコートが午前6時から午後9時まで。

成年女子ハンマー投げ

今本（十勝陸協）10位

本来の力出せず

○…女子ハンマー投げで49㍍00の北海道記録を持つ今本有紀（十勝陸協）は成年女子に挑んだが44㍍76で10位となり、8位入賞はならなかった。

8月の北海道選手権では47㍍75をマークするなど、決して不調ではなかったが、この日はバランスの悪い投てきが続いた。やや手応えのあった3投目に記録を伸ばしたが、本来の投てきではなかった。

今本は「国体にうまく調子を持っていくことができなかった。また安定感がないことも結果を残せない要因。来季は、技術、スピードに磨きを掛け、常に50㍍付近まで飛ばせる力を付けておきたい」と、自分に言い聞かせるように語っていた。

（29日・小笠山総合運動公園エコパスタジアム、関係分、決勝は1位と関係分）

＜成年＞

【女子】◇ハンマー投げ▽決勝＝①綾真澄（グローバリー・愛知）61㍍75⑩今本有紀（十勝陸協）44㍍76

＜成年少年共通＞

【女子】◇4×百㍍リレー▽準決勝1組＝②北海道（福島千里、北風沙織、久保倉里美、木田真有）46秒03・決勝進出

【成年女子ハンマー投げ・決勝】3回目の投てきに入る今本有紀（十勝陸協）。10位となり、惜しくも入賞を逃した

かちまいスポーツ

スポーツの日程・記録は▼FAX0155-25-2700

掲載写真の申し込みは▼TEL0120-25-9410